

試打の前に

今どきプレミアムドライバーのキーワードはこれ!

反発エリアの拡大



ゼクシオナイン(左)は、トゥとヒール部のカップフェース折り返し部分を拡大。グローレG(右)はヒール側のたわみを拡大して、反発エリア拡大と同時に球のつかまりやすさを向上させた

カップフェース

偏肉構造

溝 たわむヘッド

オフセンターヒット時にも、ボール初速の低下を抑えて飛距離の低下を軽減するために、反発エリアを拡大する設計がトレンド。カップフェース、偏肉構造、ソールやヘッド内部の溝、たわむクラウンなどを組み合わせている

軽量

ドライバーの総重量は260グラム台に突入

数年前までは280グラム台のドライバーが主流だったが、2016年モデルでは260グラム台が一気に増加。軽さでヘッドスピードを上げると同時に「振り遅れ」も防止する



軽いのに頼りなさは感じない

シャフト

手元重心化で振り遅れを防止

シャフトの手元重心化もトレンド。軽量化とともにシャフトの重心位置を手元側に移動。クラブ全体の慣性モーメントを小さくして「振り遅れ」を防止しながらヘッドスピードアップにも貢献している



ヘッドが利いているのに振りやすい

高反発も復活

プレミアムな飛距離を求めて増加中!?

86~87ページに掲載!

「やっぱり飛ばしたい」「競技に出るわけではない」というアベレージゴルファーのニーズに応えるのが高反発モデル。昨年10月に発売されたプロギアの〈スーパーエッグ〉の人気は高く、発売後しばらく品薄状態が続いた。追隨するニューモデルも増加している



さあ、プレミアム度をチェックだ



テスター二人の試打評価が明らかに!

アマチュア代表

榎本宏太郎さん (えのもと・こうたろう)

1951年生まれ、東京都出身。身長167センチ、体重70キロ。年間ラウンド数95、平均スコア84。アンダーパーも出るが100をたたくこともあり、スコアが安定しないのが悩み。

プロ代表

橋本浩 (はしもと・けん)

1972年生まれ、和歌山県出身。43歳、身長173センチ、体重68キロ。日本プロゴルフ協会A級ティーチングプロ。Sen Hashimoto Golf Academyを主宰。三菱ゴルフプラザなど関東を中心に、最新機器を使用した科学的なレッスンを行っている。

飛びだけじゃない特別な魅力がある

競うアスリート向けはスコアに直結する機能が第一主義。クルマにたえればレーシングカーのようなものでゴルフの技術を生かすように設計され、メーカーやブランドが違っても基本的な性格に大差はない。これに対して、ア

ベレージゴルファー向けのプレミアムクラブは、飛距離やつかまり、球の上がりやすさ、重量、デザイン、仕上げなど、アベレージゴルファーの多様なニーズに合わせてモデルごとに多種多様な性格づけがなされている。だから、自分に

ぴったりの性格を持ったものを見つければ満足感もひとしおだ。そこでプロとアマチュアがプレミアムドライバーを試打して、それぞれの「プレミアムな部分」を診断。自分にぴったりのモデルを見つけよう。



50歳からのゴルフが変わる!

プレミアム
飛び 軽さ やさしさ 仕上げ
ドライバー

2016年は「飛び」「軽さ」「やさしさ」の3拍子に加え、「仕上げ」の美しさという4拍子そろった、どこを取っても「プレミアム」なドライバーが豊作だ。かつてはハードスペックなドライバーをガンガン振っていたが、最近、飛距離が落ちてきた元豪腕ゴルファーにも、ひと昔前のやさしいクラブとされていたモデルを使用しているアベレージゴルファーにとっても福音となる逸品モデルと併せて紹介。さあ、あなたのゴルフライフが変わりますよ!

取材・文・大塚賢二 写真・山上忠 イラスト・庄司猛 デザイン・雷伝倉 取材協力・新君津ベルグリーンCC(千葉県)